

講師：呉修一先生

題目：洪水被害など

場所：富山県立大学環境工学棟 3f 会議室

日時：2017.01.16 18:00-20:00

出席者：14人

以下に話題を箇条書きにして記す。

◆津波問題

- ・過去に発生した大津波を紹介
- ・波：波浪、うねり（富山ではよりまわり）

◆3.11 震災について

- ・想定外

M9.0 が予測できなかった。M8 地震がまれなら M9 は起こりようが無い。

- ・被害特徴：車避難、津波の戻り、防潮堤
- ・津波域：リアス海岸岩手、砂浜の宮城と福島
- ・油断

津波高さ 40m もあると、油断どころでない。
宮城や福島は明治津波ではたいしたことなし
このため今回は油断。

- ・防災：仙台と福島は高潮中心
明治では 3m、今は 15m

- ・被害連鎖拡大

JMA の警報 14:49、以降停電、
第二報 15:15、第三報 15:30

- ・広域停電→信号機、情報未伝達、原発
信号機→車避難→渋滞→津波に襲
- ・大川小学校 最高裁判決、学校過失
教員は防災教育受ける。

- ・被害顕著化の要因

最初津波小の報道、役目柄逃げ遅れ、
車避難中、自宅戻り

- ・防災システム

L1：100年一度、L2：それ以上の大規模

- ・コンクリートの巨大壁の堤防 避難代
- ・防災意識 30年覚えてるのは難しい

◆洪水 豪雨災害

- ・温暖化

15年前 温暖化本当かが議論

10年前 温暖化で何が起るのか議論

最近 どう適応するか

- ・洪水

渋川 バックウォーター現象、浸透破壊
鬼怒川 2015

批判発生、土嚢対策できなかった。

ハザードマップは正確であった。

皆さん60%がしらなかった。

避難勧告：電話対応で多忙。

堤防決壊から 15分後に勧告

- ・制御洪水。
何処に洪水の水を流すか制御。
流域総合治水あふれさせることもあり。
富山の震堤防
- ・小本川氾濫 2016年8月岩泉町
避難勧告だせなかった。町5-10人で対応。
仙台市は50人体制。
小さい町ではどうするのか、
流木問題、緑ダムにも限界あり。
小さい川ではハザードマップなし
- ・最近 ハザードマップを住民がどう見る。
- ・避難に関する用語
指示（緊急）、勧告、準備